

所 管 事 務 調 査 報 告

令和 7 年 6 月 2 4 日

薩摩川内市議会生活福祉委員会
委員長 犬 井 美 香

1 調査事項

- (1) 地域医療について
- (2) 水道事業・簡易水道事業について
- (3) 危機管理について

2 調査先

長野県佐久市、長野市、東京都福生市

3 調査日

5月21日から23日まで（3日間）

4 出席委員

犬井委員長、中島副委員長、森永委員、今塩屋委員、帯田委員、森満委員、坂口（健）委員、山平委員、宮野委員

5 調査目的

地域医療の取組、A I 等を用いた管路更新最適化サービスについての取組及び福生市防災食育センターについて調査し、本市における今後の施策展開の課題等を調査する。

6 調査概要

(1) 地域医療について（長野県佐久市）

佐久市では、医療費の増大や医師等の人材不足などの課題を抱えていたことから、各医療機関が軽度の病気や怪我などの一次救急医療、詳しい検査を必要とする二次救急医療、生命の危険など症状の重い三次救急医療の救急医療体制の役割分担を明確化し、連携を密にして必要な医療を地域内で完結する「地域完結型医療体制」を構築している一方、行政も体制構築に向けての機能分割新築移転などの財政支援を行っていた。

また、在宅医療・介護連携推進事業にも力を入れており、医療・介護関係者の情報共有の支援、スキルアップ研修、在宅医療・介護連携に関する相談支援、住民への普及啓発など様々な活動を推進している。

さらに、平成27年から一般社団法人佐久医師会に「教えて！ドクター」事業を委託しており、子どもの病気やホームケア、病院受診の目安等を分かりやすくまとめた冊子を作成し、出前講座を行い、それらを基にした無料アプリを通じて保護者に情報提供をしている。なお、当該アプリのダウンロード数は令和6年9月時点で約44.3万件に上っており、子育て世帯を中心に広く普及しているとのことであった。

(2) A I 等を用いた管路更新最適化サービスについて（長野市）

長野市では、全ての老朽管の更新には30年以上を要する見込みであり、

その間にも管の劣化が進み、破損リスクが高まるおそれがあった。

従来の「古い管を更新する」手法では、古くても健全な管と新しくても劣化している管が存在するため、健全な管を無駄に更新する一方で、劣化している管が取り残される可能性があり、また、現地調査では、多くの時間と費用を要し、断水や交通規制等に伴い市民生活への影響が大きいことから、AIによる劣化予測技術を導入した。

管路のセグメントごとに管の材質、口径、経過年数や土地の傾斜、漏水の有無など、様々なデータによりAIに漏水の発生パターンを学習させることで、漏水の可能性を5段階でランク付けを行い、この診断結果に基づき更新をしていくとともに、これまで行ってきた人工衛星による漏水調査と併せて検証することで、更なる精度の向上が見込まれるとのことであった。

(3) 福生市防災食育センターについて（東京都福生市）

福生市防災食育センターは、東日本大震災を契機とし、避難所・備蓄機能、応急給食機能、食育学習機能などの防災機能を持つ施設として建設された。

平常時には、学校給食機能を活用し、小学校7校、中学校3校へ毎日4,000食の給食を調理・配送する一方で、災害時には避難所として機能し、避難生活者1万5,000人に1日1回おにぎり2個と温かい汁物を応急給食として3日間提供することができる体制が整備されている。

調理においては、衛生管理を徹底しており、アレルギー食の調理では、施設・職員が完全に分離されるなど、細心の注意が払われている。

また、調理器具も都市ガス・プロパンガスの両方に対応した炊飯システム、屋外で使用できるコンロカート、1時間あたり1,800個の自動おにぎり成形機が整備されているほか、断水を想定した応急給水設備、プロパンガスを非常用発電機で使用できる都市ガスに近い性質のガスへと変換するPAジェネレーターなどあらゆる事態を想定した設備が備わっている。

さらに、救護用テント、簡易トイレ、毛布等の防災備蓄品のほか、応急給食用として米4,500キログラム、汁物材料45,000食分を備蓄し、これらは学校給食で使用し、入替えを図っているとのことであった。

7 所感

- (1) 佐久市では、医療従事者の人材不足等の課題はあるが、地域完結型の医療体制を構築し、医療機関同士が連携するとともに、医療・介護の協働、市民への情報発信などが整備されており、本市においても参考とすべき取組である。
- (2) 長野市では、管路の劣化状況をAIが瞬時に判定することで、業務の省力化と予算削減を図り、持続可能なインフラの維持管理が行われており、本市においても効率的に事業を進めるための検討をする必要がある。
- (3) 福生市防災食育センターでは、平常時の学校給食機能と災害時の応急対応機能が一体となっており、地域住民の安全・安心を支える体制が構築されており、本市においても参考とすべき取組である。